

姉妹都市交流40周年・中学生交流34年



教育長 岩原 勝行

鹿児島県東市来町（現日置市東市来町）出身で、釧路土木派出所長時代に阿寒横断道路の建設を指揮し、観光地弟子屈町発展の基礎を作った「永山在兼氏」が縁で姉妹町盟約を締結してから、今年で40周年を迎えます。

姉妹町盟約は、1983（昭和58）年10月に弟子屈町で、同年11月に東市来町でそれぞれ締結式が行われました。

以来、双方の町職員の相互訪問交流や、関係団体の相互交流、物産交流など多くの町民が東市来町を訪問し、また東市来町の方々が本町を訪れ、交流の歴史を刻んできました。その後、2005（平成17）年に東市来町の合併に伴い、日置市との間で姉妹都市盟約継承締結式が行われ、現在に至っています。今年8月には、日置市長や市議会議長などが40周年事業として来町するほか、11月には、徳永町長以下代表団が出席し、日置市において記念式典が行われることになっております。

中学生の相互訪問交流は、1990（平成2）年2月に本町の中学生8名と引率者3名が初めて東市来町を訪問、その年の8月に東市来町からの訪問団を受け入れ、以来、隔年で相互訪問交流を行ってきました。新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年の受け入れ、令和4年の派遣と受け入れの中止を経て、本年1月の弟子屈からの派遣と8月の日置市からの受け入れで、34年間17回の相互訪問交流となり、延べ339名の生徒、117名の引率者が参加したことになります。

弟子屈町と鹿児島では、およそ2,000kmの距離がありますが、お互いの地域の生活や習慣、自然、文化を実際の目で見たり体験することは貴重な経験となり、また、ホームステイでの交流を通して家族ぐるみの交流へと繋がり、互いの結婚式に出席した例など、この相互訪問交流は、参加した中学生にとって一生忘れることのない思い出となっていることと思います。

私も、1992（平成4）年10月の町職員交流と令和2年1月の中学生派遣訪問団の引率としての二度、東市来町・日置市を訪れる機会に恵まれました。

薩摩焼発祥の地といわれる東市来町、薩摩焼一つとっても400年以上という、その歴史の長さ、自然、文化の違いにただ驚くばかりですが、本町と日置市の交流が今後も末永く続くことを祈念します。

No. 36

2023/8

発行／弟子屈町教育委員会
教育長 岩原 勝行
教育長職務代理者 金井 秀明
委員 菅原 誓之
委員 吉田 一徳
委員 宮田 昇子

観光プランなどをプレゼン

教育長 岩原 勝行

川湯中学校の「総合的な学習発表会」が7月15日に開催されました。参観日で来場の保護者や地域の方、観光関連の方々など、多くの方が中学生の発表に耳を傾けていました。

1年生は、ふるさと調査学習で学んだ、川湯地域の地質や水質調査の結果を3班が発表。硫黄山の温泉が植物や地質、水質に影響を与えていると解説していました。

2、3年生は、7月初旬の修学旅行先でインタビューや調査したことを基に、弟子屈町わくわく観光プランを考え発表。インバウンド・ペア・一人旅・ファミリー向けの4プランで、中学生らしい視点



が光ったプレゼンでした。

美留和小学校釧路川カヌー体験学習

教育長職務代理者 金井 秀明



7月3日、美留和小学校でカヌー体験学習がありました。カヌーガイドさんの協力のもと実施されました。屈斜路湖コタンから児童7名と教員3名が出発です。初めてカヌー乗船のための講習。救命胴衣を着て、パドルを持ってガイドさんの言うことを真剣に聴きます。佐藤校長はじめ先生方のフラッシュを盛大に浴び、湖へと漕ぎ出します。真っ黒くなったウグイを見ながら、橋をくぐり、いよいよ釧路川へ。兩岸の緑、流れる川と空に囲まれて進んで行きます。沢山の魚。湧水池では水温を測りその冷たさにビックリ。倒木上にはアオサギが止まっていて、カヌーが通り過ぎるのをじっと見守ってくれます。途中で中州に上陸し、ウチダザリガニや小魚に触り、あっという間に上陸地点。先生方の出迎えを受けた時、みんなの瞳は輝いていました。

弟子屈高校野球部

教育委員 菅原 誓之

第105回全国高校野球選手権大会、北北海道・釧根地区予選大会に弟子屈高校野球部が5年ぶりに単独出場した。今までは連合チームでの出場であったが、3年生4名が最後の夏は単独で出場したいという思いから、ソフトテニス部の3年生2名、バドミントン部の2年生5名を誘い念願の単独出場が叶った。初戦は連合チームに5対0で勝利し、久しぶりに弟子屈高校の校歌が球場に響き渡った。決勝戦は多くの町民の応援の中、武修館高校に1対16で敗れたが、選手たちは精一杯のプレーを出し切り最後の夏が終わった。



私も、我が息子が助っ人として出場させていただいて、ひと時ではあったが、高校球児の親として球場に足を運ばせてもらう思い出の夏となった。

夏まつり!

教育委員 吉田 一徳

去る7月15～16日に釧路川ふれあい広場特設会場にて、摩周の里夏まつりが開催されました。

15日は自衛隊音楽隊を皮切りに、町内各学校の吹奏楽団体の演奏がありました。

自衛隊の演奏が終わって、吹奏楽少年団が始まる頃には雨が降り出しましたが、観客は傘を差しながら手拍子を打ってくれたので、子どもたちのとても満足そうな顔が印象的でした。

これから町内でも演奏する機会が増えていくので、ぜひ聴いていただくと嬉しいです。



自然にはかなわないから日頃の対策を

教育委員 宮田 昇子

北海道中小企業家同友会くしろ支部摩周地区会のオープン例会が7月28日に町公民館で開催されました。

同会では毎年、防災をテーマに例会を開催しています。今年も、北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センターの高橋浩晃教授を講師に迎え「巨大地震に備える～弟子屈町の地震・火山噴火リスクと対策～」と題して講義をいただき、同会員ほか、町職員や教育関係者など22名が参加しました。

近年、発生の確率が高いとされる千島海溝地震、町内における過去の直下型地震の特徴、アトサヌプリ噴火の可能性などの説明に、参加者は真剣に聴き入っていました。



新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、各学校では学校祭や運動会、体育祭をコロナ禍前の形で通常開催。学校に笑顔と歓声が戻ってきました。

声出し解禁といえば高体連や中体連。無観客試合や、有観客だったとしても入場者数や声出し応援が制限された、この3年間。今年、後輩の大会を応援に来た卒業生が「応援してもらえて羨ましい。苦しい時、応援が力になることもある」と寂しげに笑う姿に、唐突に奪われた「当たり前」の日常の尊さ、子どもたちが失ったものの大きさを改めて感じました。

楽しく充実した学校生活が続いていくことを、願ってやみません。

(宮田)

編集後記